

アクティブ・ラーニング指導用ルーブリック

アクティブ・ラーニングの視点から、**不断の授業改善**を図るため、授業を自己・他者評価する際の基本的な5つの視点を**指導用ルーブリック**として示した。

視点1と視点5は、授業で目指すべき目標と学びの評価であり、これらは**授業の根幹**である。

1 児童生徒が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか。 【目指すべき目標・評価規準の設定等】

- 指導計画に基づき、適切な目標(資質・能力の三つの柱に基づき「何ができるようになるか」)が設定できたか。
- 本時の目標に正対する評価規準・評価方法が設定できたか。
- 児童生徒の学習意欲を高められる導入場面であったか。(学習問題や課題の工夫、提示方法の工夫など)

2 児童生徒が自分の考えを表現することができていたか。 【主に主体的な学びの視点】

- 本時の課題を正しく伝え、見通しをもたせることができたか。
- 自分の考えを表現することができるように、(主につまずいている児童生徒への)支援方法を準備し、支援することができたか。
- 自分の考えを表現することができるように、教具の工夫、適切な時間や場の設定等の準備ができたか。
- 学習活動は、目標の実現につながっていたか。

3 児童生徒が友達の発言を受け止め、自分の意見と比べていたか。 【主に対話的な学びの視点】

- 児童生徒の考えを広げ深められるような、学習形態(個人、ペア、グループ、全体)は設定できたか。
- 児童生徒の考えを広げ深められるよう、教具(具体物、ICT等)を工夫し用いていたか。
- 目標の実現につながるように児童生徒の考えを可視化(ホワイトボード、ICT等)できたか。

4 児童生徒が思考・判断・表現する活動を通して「見方・考え方」を働かせていたか。 【深い学びの視点】

- 児童生徒が本時に働かせるべき「見方・考え方」は、明確であったか。
- 児童生徒に「見方・考え方」を働かせることができる学習活動を設定することはできたか。
- 児童生徒が働かせていた「見方・考え方」を可視化(ホワイトボード、ICT等)できたか。

5 児童生徒が「分かったこと」「やったこと」や「できたこと」など、 学びの成果や課題を実感していたか。 【学びの評価・振り返り】

- 評価規準・評価計画に基づき、本時の児童生徒の学習状況を捉え、個々・グループ等へ支援する(キャッチ&レスポンスする)ことができたか。
- 目標に準拠した指導と評価となるよう、学習の状況を適切に評価することができたか。
- 児童生徒が本時の学習を振り返ることができる場面が設定できたか。

本ルーブリックを本時の授業の振り返りとしてだけでなく、**単元全体を構成する段階でも積極的に活用**し、単元の中で「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図ることが重要である。その際、目の前にいる児童生徒を見つめ(**児童生徒観**)、学習指導要領の内容を把握した上で教材の効果的な活用を考え(**教材観**)、どのように指導をするのか(**指導観**)という「**観の視点**」から**各教科の本質に迫る授業づくり**を行うことが大切である。

あわせて、児童生徒が授業の目標を達成できるよう**教材・学習材・主題といった「材の視点」**から学習環境を工夫し、**教師の働きかけにより、各教科の「見方・考え方」を働かせながら学びを深める「主体的・対話的で深い学び」**につなげることが重要である。



文部科学省委託事業 教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究実施報告書
(平成30年3月)